



発行人
西原町役場
〒903-01
西原町字嘉手苅112番地
電話(09894)-5-4533
印刷
光文堂印刷

町の人帯・人口

(昭和58年12月末現在)

世帯数	5,016世帯	人口	19,180人
男	9,666人	女	9,514人
12月の人口移動			
出生	29人	死亡	7人
転入	113人	転出	66人
婚姻	21件	離婚	3件

成人式三百三十名が参加

振りそで姿の女性などで賑わう

町主催の成人式は、一月十五日午後二時から中央公民館で成人者約二百三十名と来賓約五十名を集めてなごやかに行われた。ちなみ



成人者の門出を祝った本町の成人式

に町内で成人を迎えられた方々は、男性百四十六名、女性百五十一名計二百九十七名で昨年より二十四名増加した。今年も琉大女子寮に住んでいる四十五名の女子学生も出席して行われた。

華やかな振りそで姿の女性やおりはかまの男性、背広姿の男性とも盛装でそれぞれはを紅潮させ、二十歳を節目に成人者としての自覚と今後の社会的責任の重大さをひしひしと感じているようであった。

式典は、平安助役の開会のことばではじまり、小川

町心豊かなふるさとづくり推進協議会終わる

十二月十二日午後三時、町役場会議室で町心豊かなふるさとづくり推進協議会(宮平吉太郎会長)の昭和五十八年度総会が関係者三十四名の出席の下に行われた。席上、昭和五十七年度事業報告並びに同年度決算の承認がなされ、更に五十八年度事業実践計画並びに同年度予算が審議され決まった。

同協議会では、心豊かなふるさとづくりのためにクリーン(きれいにする)、グリーン(緑と花で包む)、グレイシヤス(心を育む)の三本柱をかねて運動を展開する方針であり、新年度も公共施設等へのチリカゴ設置、児童公園への植栽などを行う計画である。

町役場にワープロ登場

文書作成の効率化を図る

町総務課長による成人者紹介、宮平町長の式辞と記念品贈呈、親泊町議会議長と仲宗根町教育委員長からの祝辞などがあり、成人者の門出を祝い励ました。

その後、成人者を代表して坂田ハイツ(五区)の島袋勇さんと小波津団地(十五区)の金城優子さんが謝辞を述べた。その中で島袋さんは「初心にもとどって物事を見つめ直すと同時に、他人だけにま

最先端のエレクトロニクス技術を生かした日本語ワードプロセッサ(文書作成機)が昨年十二月二十三日から町役場にはじめてお目見えし、公文書作成の効率化と迅速化に役立つものと大きく期待されている。OA(オフィス・オートメーション)時代を先取りし

てワープロの導入を決めたものでひいては行政事務の合理化と省力化も図られるものと見ている。町では、このワープロを当面、一般会計予算書、財政事情書、総合基本計画書、統計書、その他の公文書などの文書作成に使用していく予定である。



ワープロ、文書作成に大活躍

八十八名が献血に協力

去る十二月十六日、人命救助のため献血の輪を広げようと西原町献血推進協議会、西原ライオンズクラブ、沖縄県赤十字血液センターがタイアップして集団献血が町役場庁舎前で行われた。町役場や農協、郵便局の職員をはじめ町内企業の従業員及び町役場を訪れた一般住民など八十八名が献血に協力し、一人当たり二百ミリリットルの採血をした。

前回の集団献血に比べて今回はかなりの協力者があり成功を納めた。同協議会では、今後とも献血思想の高揚を図ると共にこの種の集団献血を行い、町民の皆様のご協力を呼びかけていく計画である。

昭和59年度町県民税申告の出張相談日程

区名	受付月日	受付時間	受付場所
1区	2月1日(水)	9:00~16:00	幸地公民館
2区	2月2日(木)	"	棚原公民館
3区	2月3日(金)	9:00~12:00	徳佐田公民館
		13:00~16:00	森川公民館
4区	2月6日(月)	9:00~16:00	上原公民館
5区	2月4日(土)	9:00~12:00	坂田ハイツ自治会事務所
6区	2月7日(火)	9:00~16:00	翁長公民館
7区	2月9日(木)	9:00~12:00	津花波公民館
		13:00~16:00	小橋川公民館
8区	2月10日(金)	9:00~12:00	内間公民館
		"	掛保久公民館
9区	2月13日(月)	13:00~16:00	嘉手苅公民館
		9:00~16:00	小那覇公民館
10区	2月14日(火)	"	事務担任者宅
11区	2月16日(木)	"	兼久公民館
12区	2月20日(金)	"	与那城公民館
13区	2月21日(火)	"	12区公民館
14区	2月27日(月)	"	我謝公民館
		"	池田公民館
15区	2月28日(火)	9:00~12:00	安室公民館
		"	桃原公民館
16区	2月18日(土)	9:00~12:00	小波津団地自治会事務所
16区	3月1日(木)	9:00~16:00	小波津公民館
		9:00~12:00	呉屋公民館
	3月2日(金)	9:00~16:00	県管内間団地自治会事務所
	3月3日(土)	9:00~16:00	
	3月5日(月)	9:00~16:00	

上記の日程の受付期間中に申告することができない方は3月4日(日)と3月11日(日)の午前9時~午後4時に町役場税務課で受付致しますのでその日に申告して下さいようお願い申し上げます。

成人式を迎えて



安座間喜光(森川)

僕は、現在、浦添総合病院の給食センターで調理師として働いています。患者の病状によって食事の種類や味付けが違い、

僕は、今日「成人式」を迎え、今後、りっぱな大人として「克己」の信念で自分に責任を持つて生きたいと思っています。また、社会情勢や政治などについてもっと関心を持って積極的に問題に取り組んで自分の

社会に対する義務も行使していきたいと考えております。西原町は、これから益々発展していく町だと思いますが、町政に対して望むことは、福祉や農業基盤の整備などに力を入れ平和で明るく住みよい町にしてもらいたいと考えます。



下地美佐子(呉屋)

成人の日を迎え、大人への仲間入りをしたという実感は、あまり湧いてこない。それよりも、まだまだ未熟な私が、大人としての自覚を持ち、その責任を果たしていかなければならないという不安で一杯である。

私は今年三月に卒業を控え就職という問題に直面している。今まで、学生だからと許されていた事が、これからは、社会人からという問題に直面している。この可能性を大きくし、自分自身を成長させるために、いろいろな場面に積極的に参加し、多くの人々と語り合っていきたい。

また成人として許されないことになってくる。しかし、これは社会という集団の中で自己を成長させるために必要なことなのだと思う。厳しい社会へ小さな一歩を踏み出した未熟な私達。けれど、未熟という言葉には、いろいろな可能性が秘められている。

はじめに

十六区は、小波津本部落と呉屋本部落からなり、二一八一世帯、一、一四六八(58年12月末)を有し、面積が〇・七八平方キロメートルで人口規模、面積とも中程度の行政区である。宅地開発は、小波津ではあまり進んでないが、呉屋では、昭和四十五年比べて現在の世帯数が一九倍と急激に増加した。それは、四十七年以降、西原中学校周辺に町外からの入者によって新興住宅が建設されたことなどによるものである。

現在は、小波津一七五世帯(七四五人)、呉屋一〇四世帯(三八七人)、安室二世帯(二人)である。昭和十九年には、小波津一七〇世帯(六五〇人)、呉屋五五世帯(二四九人)であった。



西原ハイツの上空から眺める小波津のほぼ全景(昭和56年12月撮影)

一つに教えられている。津記武多森(チキンタモ)の頂上付近の南側に津記武多按司墓と北側に小波津祝(ノロ)墓があり、ここは津記武多グスクとも呼ばれ、小波津一帯は津記武多按司の支配の下に栄耀華を極めた時代があった。津記多グスクからは、前方に広大な肥沃な小波津前原、安室後原一帯、後方に池田及び小波津後原、翁長一帯が一望でき、そこは、当時の支配者にとって一つの要衝であった。小波津の部落内には、津記多按司にまつわる旧跡が数多く残っている。

小波津の部落発祥の地は、小波津団地から北東方向にある上ノ嶽と下ノ嶽の周辺であり、そのふもと周辺に昔の住居跡も見られる。今は、クロヨナ、アカギ、タブノキ、シマグワなどの樹木が茂がり、こんもりとした森を形成している。ここから硬質のグスク

系土器が発見されており、グスク時代以前から人が住んでいたことを物語っている。

その後、現在の小波津集落センター付近を中心に集落が移動し、現在の部落ができ上がった。

呉屋は、呉屋森(グヤモ)の山頂にある上ノ嶽付近が部落発祥の地であり、その後、殿(アシビナ)付近、現在の所へ集落が移動してきたと思われる。仲松弥秀著「古層の村」にこの上ノ嶽の頂上を「グスクの頂(ちぢ)」と記述している。この部落は、そのことから、町内でもかなり古い部落だと考えられる。

町内では呉屋だけに石の獅子像が残っており、それはちょうど運玉森に向っているが、運玉森に対する「サンゲシー」(厄払いの意味)として建てられたという説もある。いづれにしてもこれは、部落の守護神であり、町内の数部落にある獅子舞の獅子よりも古いものである。

部落行事の中での特徴は、「エイサー」であり、昭和初期まで盛大に行われ、村内外からも多数の観客が見物に訪れた程であったという。いつ頃からエイサーをやりはじめたか定かではないが、与那城間切屋敷名から川又端門中によって伝えられたのではないかと考えられる。

また、呉屋の村芝居で人情歌劇「貞女の孝子」は、有名で県下でもこしか上演しなかったと言われる。親孝行息子が育てぬ父親を助けるという設定である。昭和九年まで上演されたという。

小波津、呉屋ともハワイ、ブラジル、ペルー、アルゼンチンへの移民の多い部落として町内でもよく知られている。

位置

十六区は、本町のやや中央部に位置する地域で東西に一・四キロメートル、南北に一・三キロメートルの区域となっており北側が四区および六区、東側が七区および九区、南側が十四区、西側が一区にそれぞれ接し、宇呉屋と宇小波津の一部地域で形成されている。

この区は集落形態を字別に見ると奥道三八号線に沿って宇呉屋の集落がやや東西に帯状に広がり、六区(宇翁長)との境には西原中学校が立地している。

また、奥道一五五号線に沿ってやや南北に宇小波津の集落が広がっておりその東側には広大な優良農地、西側には小波津児童公園が立地している。

小波津

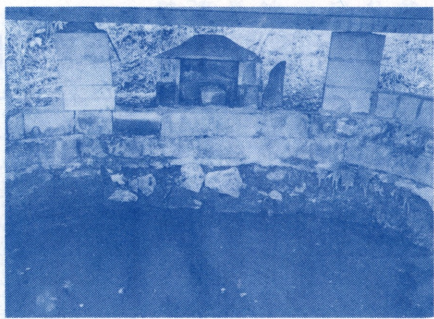
小波津部落は町内でも古い集落の一つである。部落の西側の上ノ嶽や下ノ嶽付近から硬質のグスク系土器が採取される。マキヨ時代小波津部落の先人らはそこに住んでいたと思われる。

古い集落なので、多くの伝統芸能がよく残されている。とくに、組踊りと棒術は戦前から有名であった。伝説をだいにしている。方言では小波津のことをクフアチと唱える。クフアチとは小橋川のクワアと同様に蒲葵(ヘバ)を表し、語尾のチは屋我地、羽地のチ同様場所を表す。つまり、小波津の地名の由来は蒲葵の生い繁ったところであろう。

おらがまち (十七)

十六区 小波津、呉屋

小波津の産井である亭良佐井



その南西斜面に立地している。現在でも部落の守護神として運玉森に向って石獅子が建っている。そのことは旧集落が上ノ嶽付近にあったことを物語っている。そこから染付片や青磁器、グスク系土器などが採集される。

『南島風土記』に呉屋の地名について、『検地帳』に「ごりや村」となっているが、乾隆帳には「呉屋」となっている。然るに康熙六年(一六六七)評定所の廻文例寄に「呉理屋鎖之側」と見えているが、古へ「ゴリヤ」と唱へしものか。とある。呉屋は方言ではグヤと呼ぶ。

伝承によると、呉屋部落の創始家として三家あるという。玉城間切玉城村の仲村渠家からの分家である東小門中、勝連間切平安名から来た前門門中、与那城間切屋敷名村から来た川又端門中の三家である。その三家のなかで最も古い家柄は東小(仲村渠)である。

『球陽』に、尚敬三二年(一七四四)呉屋村の村長六名が部落民を指導して農業に励んだ結果、間切中が疲弊しているのに呉屋村だけが米五石八斗も蓄えることができたことが載っている。その六名とは呉屋掟親雲上、知念筑登之親雲上、与儀筑登之、松城間、三良呉屋、武太与儀であったという。

小波津部落は広大な肥沃の土地を囲っていたので、豪農がかなりいた。首里王府に第十五回目的江戸上り(一七九〇年)の費用の一部として一万貫を貸した呉屋筑登之親雲上などもその一人である。

拝所

小波津にはいくつかの拝所や御嶽、拝井泉がある。小波津ノロは呉屋や津波波の祭祀を司っていた。上ノ嶽 部落中央部にある森の頂上付近にある。ここが部落発祥の地とされている。

下ノ嶽 上ノ嶽の東側にある。ここにもマキヨがあった。上月門中の宗家はその下にある。



上ノ嶽の東側にある下ノ嶽

小波津祝火神 下ノ嶽の一角にある。『由来記』に小波津ノロの祭祀なりとある。御神酒や花米は地元の百姓が負担した。

小波津根所 集落センターの一角にある。部落の創始者である小波津マアが祀られている。内原門中の宗家の屋敷跡だといわれる。亭良佐井 部落の産井泉(ウブガー)である。ここで津記武多按司の妃が朝・夕水浴したという伝説がある。

その他にも拝所泉として、新井中ノ井、外ノ井、与儀井、上月井等がある。運玉への火返グミイとしてユッキグミイがあった。呉屋部落には『由来記』に載っている四ヶ所の祭処以外に三ヶ所の拝所泉がある。

上ノ嶽 呉屋森の山頂付近にある。部落発祥の地である。かつて(次面に続く)



右側の手前が呉屋のほぼ全景、小じんまりした部落である。

年中行事

こは「グスクの頂」と呼ばれていた。呉屋ノ火神 呉屋森の中腹にある遊び庭の一角にある。呉屋根川 アシビナーの東側にある。部落で最も古い拝井泉である。呉屋之殿 殿とは祭祀を行う広場である。その殿は上ノ嶽と部落の中間にある。東ノ井 部落の東端にある。字の産井泉（ウブガ）である。この他に拝井泉として西ノ井と中ノ井がある。

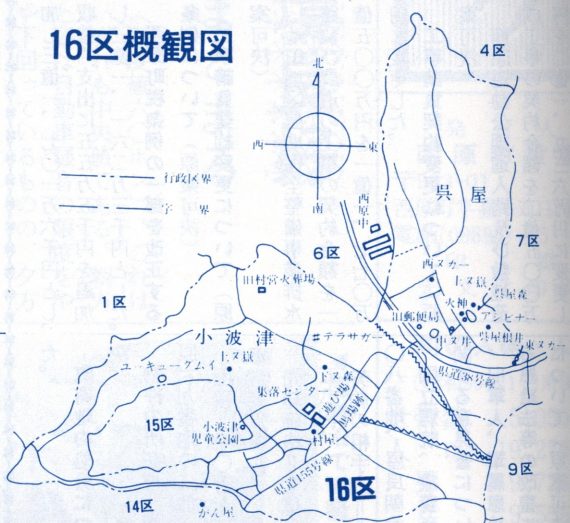
チー綱は少年達によって行われ、たんに綱引といえ、旧六月二五日の御初綱をさす。綱引は西組の雄綱と新島組の雌綱とに分かれて、馬場（部落の中心）で行う。綱引が始まる前に、青年らによる棒術が披露され、綱引が終わると全青年が参加する巻棒があった。

村芝居 旧七月と旧八月には「遊び」と称して、字民総出でさまざまな踊りや組踊が公民館前の特設舞台で演じられた。かつては、そのために一ヶ月余も練習に励んだ。村芝居を行うには相当な経費が必要なので、明治末期ごろから七年毎（マール）で行うようになった。組踊には我謝から習ったという「久志の若按司」や「村原（大川敵討ち）」、「父子忠臣」などが上演された。部落でもっとも人気のあったのは兼元大主親子の忠臣物語である「父子忠臣」であった。

呉屋も戦前までいろいろな字行事を行っていた。とくにエイサーは有名であった。

エイサー 旧七月一六日の盆のウークイの日に字青年会が中心になってエイサーが行われた。その日の晩、青年らは中ノサターヤ一前広場に集まり、エイサーをしながら各戸を練り歩いた。翌日の午前四時ごろまで、エイサーの大鼓の音が部落中に鳴り響いた。エイサーの見物に他部落から多数つめかけて盛大であった。

16区概観図



帰郷に刺激されて、昭和初期頃から多数ベルーやブラジル等へ渡った。ベルーへは十世帯ほど、ブラジルには二十世帯ほどが移民した。その時、移民旅費は一部補助金が出た。

小波津部落には主なる門中として六つの門中がある。内原門中 小波津で最も古い血縁集団である。部落の創始家である。と呼ばれている。姓は小波津である。

上月門中 津記武多按司の後裔だといわれている。現在でも、毎年の清明祭には按司墓に集まり、先祖を祀る。姓は呉屋、与那嶺、糸数等である。

ノロ殿内門中 昔、玉城間切玉城村から来た。姓は久保田である。代々、久保田家が小波津ノロを世襲してきた。

井又前門中 幸地の仲門門中からの分れである。「球陽」に載っている呉屋筑登親雲上はこの門中の先祖である。姓は呉屋である。

西門門中 呉屋の井又端門中からの分れである。姓は呉屋である。新屋門中 部落でも古い門中の一つである。姓は呉屋である。

門中

一つである。姓は呉屋である。呉屋には主なる門中が三門中である。東小、前門、川又端等の門中である。

東小門中 昔、玉城間切玉城村の仲村渠から分家してきた。部落で最も古い門中である。国元（創始家）である。姓は呉屋、与儀である。

前門門中 勝連間切平安名村から来た。その時期は不明である。姓はここに来るまでは安里であったが、その後婚姻等によって呉屋姓になった。

川又端門中 旧藩時代、与那城間切屋敷名出身の役人がこの仲村渠家の娘と結婚し、ここに住んだのがはじまりだといふ。姓は呉屋である。

その他、翁長の喜納門中からの分れである川又前門中や棚原の比嘉門中からの分れである上月門中などがある。

移民

西原町の移民史に特筆すべき人物が呉屋部落から出ている。呉屋次良（当時二五歳）である。移民の父当山久三が一八九九年に呼びかけた初回ハワイ移民に応募し、他の二五名と共に渡航した。

呉屋次良は仲門小（屋号）の次男である。当時那覇で番頭として働いていて、そこで移民募集の話を聞き応募した。ハワイへ渡った後、妻として津花波の前仲門の娘（与那嶺カマ）を呼寄せた。子供は八人いた。戦前、戦後を通じて二、三回帰郷した。

呉屋部落の青年らは呉屋次良の

落の三名の若者が、明治三十七年ごろメキシコへ炭坑労働者として渡った。村頭主を勤めた。小波津喜太、新内原の小波津徳、新山下の呉屋の三名で、共に武者（ブザ）であり、年令は二七、八歳であった。

明治四二年、三男城間の城間賀真と後掛保久の小波津の二人がハワイへキビ作労働者として渡った。その後、ハワイへは十人以上の人々が移民した。在秘小波津出身者は、昭和三四年に二十三世帯を数え、町内で三番目に多かった。

大正期、ベルーに三十名の人々

子（呉屋）、▼青年会長 小波津満▼あやめ子ども会育成会長 呉屋光子▼旧跡・拝所 上の嶽（小波津）、下の嶽（小波津）小波津祝火神、小波津根所、津記武多按司墓、

九・四二ヘクタール▼さとうきび生産 五、〇二二トン▼事務担当者 呉屋定子▼区長 小波津善（小波津）、村屋ガ、ユッキグムイ、上の嶽（呉屋）、呉屋の殿、呉屋会長 小波津武▼婦人会長 小波津エイ（小波津）、阪本登代、西ヌカ、中ヌカ、東ヌカ



16区事務担当者

編集後記

昭和五七年六月一日発行の広報にしはら第二九号から「おらがまち（シリーズ）」がスタートし、一年八ヶ月の歳月をかけて町全体及び一区から十六区までの全区の紹介を今月号で終わることができました。

このシリーズの編集に当たり、資料として、昭和五三年に町内の各部落公民館等で多数の古老の方々を集めて町史係の平良利夫が行った聞き取り調査に基づく記録簿が使用されました。広報係の喜屋武哲治、町史係の平良利夫、企画係の郷清一の三名が分担して原稿が書れました。

尚、取材及び資料提供、部落の

旧跡案内などに心よく協力下さった比嘉正善（幸地）、与那嶺栄幸（幸地）、比嘉貞裕（棚原）、城間盛次（棚原）、安座間喜盛（徳佐田）、石原昌英（森川）、普天間朝光（千原）、安里寛盛（上原）、喜納信明（上原）、大城繁（琉球大学医学部施設係）、玉得博久（坂田ハイツ）、座安正（リュウホウ開発）、城間清茂（仲宗根信政、糸数三良（翁長）、長嶺由光（津波花）、前代貞雄（西原台団地）、外間惟正（小那覇）、大城磯雄（琉銀外為課長）、与古田光助（九区）、崎原盛喜（町文化財保護委員）、小橋川正（兼久宮平吉太郎（兼久）、宮平定昌（兼久）、小波津仁徳（呉屋）、平良勇（兼久）、城間源市（与那城）、崎原裕右（12区）、呉屋賀真（我謝）、城間光雄（我謝）、平良繁信（我謝）、新垣良吉（我謝）、城間栄吉（安室）、崎間真津（佐敷町仲伊保）、宮平盛太郎（安室）、喜屋武亀（桃原）、宇久田朝秀（池田）、比屋根定知（池田）、島袋宗盛（池田）、上亀直一（小波津団地）、安里久（県住宅供給公社計画課主幹）、小波津善一（小波津）、呉屋栄一（呉屋）、呉屋良一（呉屋）の各氏に深く感謝申し上げます。

さらにそのほかにも各区及び各関係機関、事業所から多数の方々が取材にご協力下され、多くの方々の資料提供、証言等大いに役に立ちました。取材にご協力下された方々に深く感謝申し上げます。

町では、町史の「民俗編」で詳しく部落史を掲載する計画であり、ますが、広報に掲載されたものに疑問点、あやまった点がございましたら町企画課まで一報下されば、修正した上、町史編さんに役立てて行きたいと思っております。

今後とも町史編さん事業にご協力のほどよろしくお願いいたします。

西原町 県大会で アベック優勝

第六回県小学生9人制バレーボール大会は、去る十二月二十六日、二十七日の両日、仲西小体育館(男子)と浦添小体育館(女子)で行われたが、本町の西原東小



県大会で男女優勝に輝いた西原東小バレーボール選手団と関係者

校の男女Aチームが見事アベック初優勝を飾った。その日、同校では、職員室に選手全員をはじめ教職員及びPTA関係者多数を集め祝勝会を開き、よく健闘した選手たちをほめたたえ、ともにアベック初優勝の喜びにわきかえった。男子二十四チーム、女子十六チームが参加して大会が行われた。

昭和59年年始会 賑わう

新年恒例、町主催の「昭和五十九年年始会」が一月四日午後四時から中央公民館で開かれた。

町内外各界から五百五十人近くの関係者が参加し、「あけましておめでとう。ことしもよろしく」とあいさつが交わされ賑わった。平安恒政助役のあいさつで開会され、宮平吉太郎町長、親泊輝武町議会議長、仲宗根英輝町教育委員長などからあいさつを受けた後、与儀栄町農業委員会長の乾杯の音頭と続いた。舞台では古典音楽や



琉球舞踊を披露され年始会を盛り上げた。

が、男子は全国大会準優勝の貫録を見せ決勝までの五試合ともストレートで破り相手チームを寄せつけず圧勝した。女子チームは決勝戦で接戦の末粘り勝ちを納めた。尚、決勝戦の結果は次の通り。

【男子】	
西原東	21-12
A 2	(21-9) 0 宮城
西原東	23-21
A 2	(18-21) 1 あげだ
21-16	

所得税の確定申告は早めに

移動納税相談は2月23日、24日

昭和五十八年分の贈与税の申告と所得税の確定申告は三月十五日まで受付けています。それらの申告はできるだけ早めに北那覇税務署(電話七七一三三四)で行って下さい。

尚、北那覇税務署では次の日程で「移動納税相談」を行い、それらの申告が西原町役場内で行うようにしています。

日時 二月二三日、二四日
午前九時午後四時
場所 西原町役場会議室

※ できるだけ相談会場を御利用ください。

消防出初式

各種の模範演技を披露

東部消防組合の五十九年消防出初式が、一月六日午後二時から同組合本部構内で行われた。式典では、消防職員の服装、機械器具点検、消防職員の表彰、山城時正管理者訓示、来賓祝辞、展示訓練、消防長謝辞などがあつた(写真)。展示訓練では、消火栓での油火災の消火訓練や大型ポンプ車からの一斉放水や精鋭なレーンジャーパー隊による模範演技などが詰めかけた観客に披露された。



消防団員の服装点検のよう

幸地で不発弾撤去 無事終わる

十二月二十二日午前十一時、幸地の沖繩アドベンチストメディアカルセンター病院用地造成現場で発見された米国製二百五十キロ不発弾の撤去作業が自衛隊処理隊によって無事行われた。幸地の住民六八世帯(三三九名)が避難した。



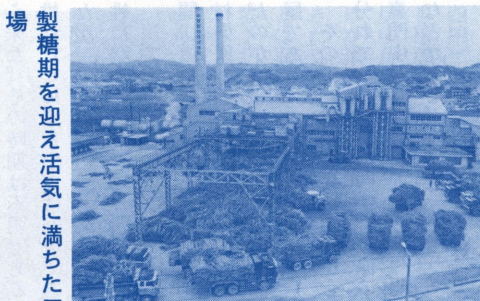
製糖操業一月十日 から始まる

キビ農家、収穫期たけなわ

中部製糖(工場)の操業が一月十日から始まり、三月二十五日まで続けられることとなり、サトウキビ農家にとって収穫期のたけなわを迎え、忙しい毎日となっている。

本町の今期のキビ生産は、三万トンの予想で、ほぼ昨年並み、六億四、四一〇万円の売り上げが見込まれている。ちなみに今期のサトウキビのトン当たり生産者価格は、前期より二〇円の引き上げにとどまり二万二、四七〇円と大変厳しい状況となっている。

生産面積は 三五・五ヘクタール、生産農家九四戸であり、一戸当たり平均三六・四アル(一、〇九〇坪)を耕作していることになる。反収は平均八・四トンを二年前に比べてやや低くなる予想である。



寄付お礼

一月十八日、字与那城五八番地の宮平宗益さんから父・賀真さんが八十五歳の生年祝を迎えられたお礼のために「社会福祉に役立て下さい」と町社協に十萬円の寄付がありました。

この紙面をかりて宮平さんの御厚意に感謝申し上げます。

町社交ダンス同好会 中央公民館に 図書券を贈る

一月十三日午前、町社交ダンス同好会(宮城辰三会長)から日頃のサークル活動のお礼にと第一回チャリティーダンスパーティーの収益金から七万四千相当の図書券(世界の伝記全五十巻)が中央公民館図書室に贈られた。

贈呈式は、教育長室で行われ、小川教育長は、同会の善意に感謝した。



宮平プロパン、町社協に寄付

十二月二十三日午前、宮平プロパン(宮平蔵代表者)から町社協に「社会福祉に役立て下さい」と五萬円の寄付がありました。また、その日、町内五ヶ所の保育園に園芸セット十八組がそれぞれに贈られました。

この紙面をかりて同社の御厚意に感謝申し上げます。

町農業委員選挙人名簿縦覧期間(異議申し立て期間)は2月23日~3月8日。